

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公 開 特 許 公 報(A)

(11) 特許出願公開番号
特開2004-16457
(P2004-16457A)

(43) 公開日 平成16年1月22日(2004.1.22)

(51) Int.Cl. ⁷	F I	テーマコード (参考)
A 4 7 B 37/00	A 4 7 B 37/00	3 B 0 5 3
A 4 7 B 13/02	A 4 7 B 13/02	3 L 0 7 2
F 2 4 D 13/02	F 2 4 D 13/02	Z

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号	特願2002-175157 (P2002-175157)	(71) 出願人	396011646
(22) 出願日	平成14年6月17日 (2002. 6. 17)		富永 秀治
			群馬県高崎市石原町 3 2 0 8
		(71) 出願人	597138092
			富永 伸樹
			群馬県高崎市石原町 3 2 0 8
		(74) 代理人	100093827
			弁理士 岡野 正義
		(72) 発明者	富永 秀治
			群馬県高崎市石原町 3 2 0 8 番地
		Fターム(参考)	3B053 NR05
			3L072 AA01 AB10 AC02 AE04

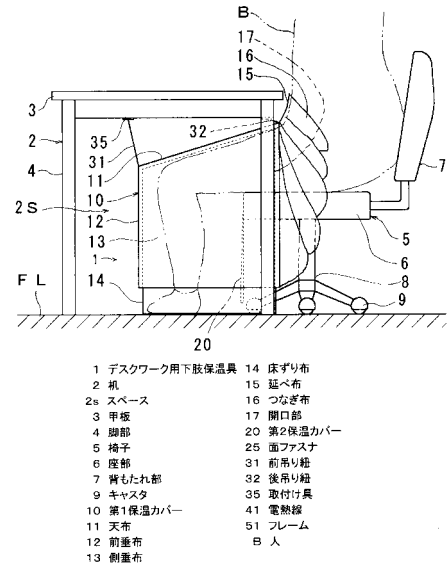
(54) 【発明の名称】 デスクワーク用下肢保温具

(57) 【要約】

【課題】何ら手を煩わすことなく人の下肢全体を効果的に保温することができるデスクワーク用下肢保温具を提供すること。

【解決手段】机2の甲板3下のスペース2sに配設され後方部分に人Bの脚部の出し入れを許容する開口部17が形成された第1保温カバー10と、椅子5の前面部に配設された第2保温カバー20とを備え、第1保温カバー10で当該カバー開口部17を介して差し込まれた人Bの下肢を前方、左右両側および上方から囲むとともに第2保温カバー20で人Bの脚部を後方から囲んで下肢を保温する。第1保温カバー10および第2保温カバー20のうちの少なくともいずれか一方が高断熱布製とする。第1保温カバー10および第2保温カバー20のうちの少なくともいずれか一方に電熱線41を設ける。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

椅子に座り脚部を机の甲板下のスペースに差し入れた人の下肢を保温するデスクワーク用下肢保温具であって、

前記机の甲板下のスペースに配設され後方部分に前記人の脚部の出し入れを許容する開口部が形成された第 1 保温カバーと、前記椅子の前面部に配設された第 2 保温カバーとを備え、第 1 保温カバーで当該カバー開口部を介して差し込まれた人の下肢を前方、左右両側および上方から囲むとともに第 2 保温カバーで前記人の脚部を後方から囲んで下肢を保温することを特徴とするデスクワーク用下肢保温具。

【請求項 2】

前記第 1 保温カバーおよび前記第 2 保温カバーのうちの少なくともいずれか一方が高断熱布製とされた請求項 1 記載のデスクワーク用下肢保温具。

【請求項 3】

前記第 1 保温カバーおよび前記第 2 保温カバーのうちの少なくともいずれか一方に発熱体が設けられた請求項 1 又は 2 記載のデスクワーク用下肢保温具。

【発明の詳細な説明】**【0001】****【発明の属する技術分野】**

本発明は、デスクワーク用下肢保温具に関する。

【0002】**【従来の技術】**

デスクワークする場合、人は椅子に座って脚部を机の甲板下のスペースに差し入れた姿勢を取るのが一般的である。この際、冬場などには室内を暖房しても上記甲板下は気温が上がらないことがあり、人によっては下肢に毛布を巻きつけて冷えを防ぐことがある。特に、冷え性の女性にとっては、保温用の毛布は冬場の必需品といわれている。最近では、夏場でも過度に冷房する傾向にあるため、毛布を下肢に巻きつけることが多くなっている。

【0003】**【発明が解決しようとする課題】**

ところで、上記したように毛布を下肢に巻きつけて冷えを防ぐのでは、用事等のために席を離れる都度に毛布を椅子の上や机の甲板上に置き、用事が終わって席につく際には毛布を取って再び下肢に巻きつけなければならず、非常に煩わしい。

【0004】

また、毛布を下肢全体が保温できるように巻きつけるのは難しく、下肢の一部（特に、冷気に晒される脛や足部）が冷えから逃れられないことが多い。

【0005】

本発明の目的は、何ら手を煩わすことなく人の下肢全体を効果的に保温することができるデスクワーク用下肢保温具を提供することにある。

【0006】**【課題を解決するための手段】**

上記目的を達成するために、請求項 1 の発明は、椅子に座り脚部を机の甲板下のスペースに差し入れた人の下肢を保温するデスクワーク用下肢保温具であって、前記机の甲板下のスペースに配設され後方部分に前記人の脚部の出し入れを許容する開口部が形成された第 1 保温カバーと、前記椅子の前面部に配設された第 2 保温カバーとを備え、第 1 保温カバーで当該カバー開口部を介して差し込まれた人の下肢を前方、左右両側および上方から囲むとともに第 2 保温カバーで前記人の脚部を後方から囲んで下肢を保温することを特徴とするものである。

【0007】

請求項 2 の発明は、前記第 1 保温カバーおよび前記第 2 保温カバーのうちの少なくともいずれか一方が高断熱布製とされたものである。

【0008】

10

20

30

40

50

請求項 3 の発明は、前記第 1 保温カバーおよび前記第 2 保温カバーのうちの少なくともいずれか一方に発熱体が設けられたものである。

【 0 0 0 9 】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施形態を図面を参照して説明する。

【 0 0 1 0 】

本発明に係るデスクワーク用下肢保温具 1 は、図 1 および図 2 に示すように、机 2 の甲板 3 下のスペース 2 s に配設された第 1 保温カバー 1 0 と、椅子 5 の前面部に配設された第 2 保温カバー 2 0 とを備え、第 1 保温カバー 1 0 で当該カバー開口部 1 7 を介して差し込まれた人 B の下肢（脚部および腰部）を前方、左右両側および上方から囲むとともに第 2 保温カバー 2 0 で人 B の脚部を後方から囲んで下肢を保温する構成とされている。 10

【 0 0 1 1 】

具体的には、第 1 保温カバー 1 0 および第 2 保温カバー 2 0 は高断熱布製とされている。これにより、人 B の下肢部と柔らかく接触することになり一段と使い心地が良くなる。この実施形態では、両保温カバー（1 0 , 2 0）は、毛布等の厚布で形成されている。第 1 保温カバー 1 0 の後方部分には、図 4 および図 5 に示すように、椅子 5 に座った人 B の脚部の出し入れを許容する開口部 1 7 が形成されている。なお、図 1 および図 2 において、2 は机である。3 は机 2 の甲板、4 は机 2 の脚部である。また、5 は椅子である。6 は椅子 5 の座部、7 は背もたれ部、8 は脚部、9 はキャスタである。

【 0 0 1 2 】

より具体的には、第 1 保温カバー 1 0 は、図 3 ~ 図 5 に示すように、天布 1 1、前垂布 1 2、側垂布 1 3、床ずり布 1 4、延べ布 1 5 およびつなぎ布 1 6 から形成されており、前吊り紐 3 1 および後吊り紐 3 2 ならびに取付け具 3 5 を介して甲板 3 の底面部（または引出し支持部）に吊下げられている。 20

【 0 0 1 3 】

第 1 保温カバー 1 0 の天布 1 1、前垂布 1 2、側垂布 1 3、延べ布 1 5 およびつなぎ布 1 6 は、縫い合わされるなどして一体的に形成されている。床ずり布 1 4 は、前垂布 1 2 および側垂布 1 3 の下端部に面ファスナ（図示省略）を介して高さ位置調節可能および取外し可能に取付けられている。この床ずり布 1 4 は、その下端が床面 F L に軽く接触するように高さ位置が調節されている。また、汚れた場合には、取り外して洗濯することにより、いつも清潔な状態を維持できることとされている。つなぎ布 1 6 は、ブリーツ状に形成されており、延べ布 1 5 の持ち上げ動作等を許容可能とされている。 30

【 0 0 1 4 】

なお、取付け具 3 5 は、スチール製の机 2 の上記甲板 3 の底面等に磁力で強固に固着して第 1 保温カバー 1 0 を保持可能に形成されている。前吊り紐 3 1 および後吊り紐 3 2 の長さを調節することにより、第 1 保温カバー 1 0 の高さ位置や姿勢を調節できる。使用に先立ち、第 1 保温カバー 1 0 の天布 1 1 が椅子 5 に座る人 B の太ももに接触するように紐（3 1 , 3 2）の長さを調節しておく。このように、使用者の体格に合わせて天布 1 1（従来のひざ掛け相当）を太ももが当たる位置に簡単に調節できる。

【 0 0 1 5 】

また、上記した第 1 保温カバー 1 0 の天布 1 1、前垂布 1 2、側垂布 1 3 に、それぞれ図示しない面ファスナを介して各同等面積の厚布（図示省略）を取付け可能に構成してもよい。これにより、一段と保温性能を向上させることができる。 40

【 0 0 1 6 】

一方、第 2 保温カバー 2 0 は、図 6 および図 7 に示すように、椅子 5 の前面部に垂れ下げられている。この実施形態では、第 2 保温カバー 2 0 は、垂れ下り長さが面ファスナ 2 5 を介して調節可能とされている。使用に先立ち、第 2 保温カバー 2 0 が椅子 5 のキャスタ 9 の運動に支障を与えないように、当該カバー 2 0 の垂れ下り長さを調節しておく。

【 0 0 1 7 】

上記構成のデスクワーク用下肢保温具 1 によれば、図 1 および図 2 に示すように、椅子 5 50

に座った人 B が延べ布 15 を持ち上げ、椅子 5 ごと机 2 に向かって少し移動すれば、その脚部は第 1 保温カバー 10 内に開口部 17 を介して差し込まれる。すると、椅子 5 に座った人 B の下肢は、第 1 保温カバー 10 の天布 11、前垂布 12、側垂布 13、床ずり布 14、延べ布 15 およびつなぎ布 16 によって前方、左右両側および上方から囲まれるとともに、第 2 保温カバー 20 によって脚部後方が囲まれる。これにより、人 B の下肢部体熱の放散が抑えられるとともに外部からの冷気の侵入が抑えられる。このように、椅子 5 に座った人 B が椅子 5 ごと机 2 に向かって少し移動するだけで、下肢全体が保温されることになる。

【0018】

また、用事等のために席を離れる場合は、上記人 B が椅子 5 ごと後退すればその脚部が第 1 保温カバー 10 から自然に抜け出る。この際、第 1 保温カバー 10 は紐 (31, 32) 等によって机 2 の甲板 3 下に保持されており、第 2 保温カバー 20 は椅子 5 に保持されているので、両カバー (10, 20) を片付ける必要がない。そして、用事が終わって席につく際には、人 B は上記したように椅子 5 ごと机 2 に向かって少し移動するだけで本デスクワーク用下肢保温具 1 によって下肢全体が保温される。したがって、何ら手を煩わすことなく人 B の下肢全体を効果的に保温することができる。

【0019】

なお、上記実施形態では、第 1 保温カバー 10 および第 2 保温カバー 20 を高断熱布製としたが、これに限定されるものではなく、両者またはいずれか一方を布以外の材料 (例えば、プラスチック) で形成してもよい。

【0020】

また、第 1 保温カバー 10 および第 2 保温カバー 20 のうちの少なくともいずれか一方に発熱体を設けてもよい。例えば、布製の第 1 保温カバー 10 内に図 8 に示すように電熱線 (41) を配設し通電することにより、適度な熱を発生するように構成してもよい。これにより、机下用の温風機を使用するよりも消費電力量が大幅に減少し省エネとなるとともに、電力が低い場合通電を切り忘れても安全である。

【0021】

また、第 1 保温カバー 10 を前吊り紐 31 および後吊り紐 32 等を介して机甲板 3 の底面部等に吊下げたが、これに限定されるものではなく、例えば図 9 に示すように、机 2 の甲板 3 下のスペース 2s で自立するフレーム 51 で第 1 保温カバー 10 を保持するようにしてもよい。

【0022】

【発明の効果】

請求項 1 の発明によれば、机の甲板下のスペースに配設した第 1 保温カバーで椅子に座った人の下肢を前方、左右両側および上方から囲むとともに、椅子に配設した第 2 保温カバーで人の脚部を後方から囲むので、何ら手を煩わすことなく人の下肢全体を効果的に保温することができる。

【0023】

請求項 2 の発明によれば、第 1 保温カバーおよび第 2 保温カバーのうちの少なくともいずれか一方が高断熱布製とされているので、請求項 1 の発明と同様な効果を奏する他、人の下肢部と柔らかく接触することになり一段と使い心地が良くなる。

【0024】

請求項 3 の発明は、第 1 保温カバーおよび第 2 保温カバーのうちの少なくともいずれか一方に発熱体が設けられているので、請求項 1 又は 2 の発明と同様な効果を奏する他、一段と保温効果を増すことができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の実施形態を説明するための図である。

【図 2】同じく、使用前の状態を示す図である。

【図 3】同じく、全体構成を説明するための側面図である。

【図 4】同じく、全体構成を説明するための斜視図である。

【図 5】同じく、第 1 保温カバーの開口部を説明するための斜視図である。

【図 6】同じく、椅子に配設された第 2 保温カバーを説明するための斜視図である。

【図 7】同じく、第 2 保温カバーを説明するための正面図である。

【図 8】同じく、第 1 保温カバー内の電熱線を説明するための側面図である。

【図 9】同じく、フレームに保持された第 1 保温カバーを示す斜視図である。

【符号の説明】

1 デスクワーク用下肢保温具

2 机

2 s スペース

3 甲板

4 脚部

5 椅子

6 座部

7 背もたれ部

9 キャスタ

1 0 第 1 保温カバー

1 1 天布

1 2 前垂布

1 3 側垂布

1 4 床ずり布

1 5 延べ布

1 6 つなぎ布

1 7 開口部

2 0 第 2 保温カバー

2 5 面ファスナ

3 1 前吊り紐

3 2 後吊り紐

3 5 取付け具

4 1 電熱線

5 1 フレーム

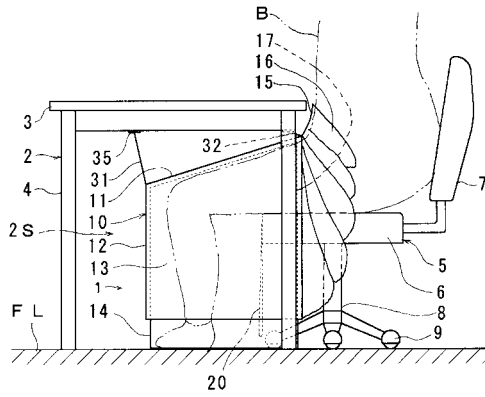
B 人

10

20

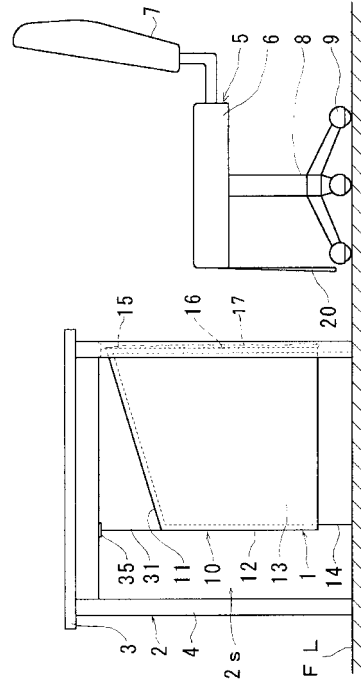
30

【図 1】

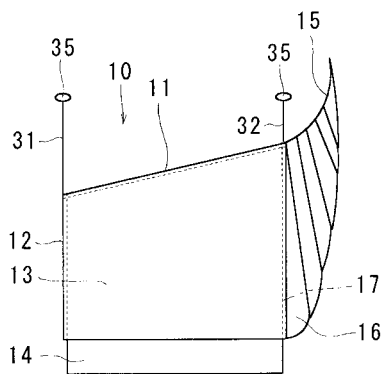


- | | |
|----------------|------------|
| 1 デスクワーク用下肢保温具 | 14 床ずれ布 |
| 2 机 | 15 延べ布 |
| 2s スペース | 16 つなぎ布 |
| 3 甲板 | 17 開口部 |
| 4 脚部 | 20 第2保温カバー |
| 5 椅子 | 25 面ファスナ |
| 6 座部 | 31 前吊り紐 |
| 7 背もたれ部 | 32 後吊り紐 |
| 8 キャスタ | 35 取付け具 |
| 10 第1保温カバー | 41 電熱線 |
| 11 天布 | 51 フレーム |
| 12 前垂布 | B 人 |
| 13 側垂布 | |

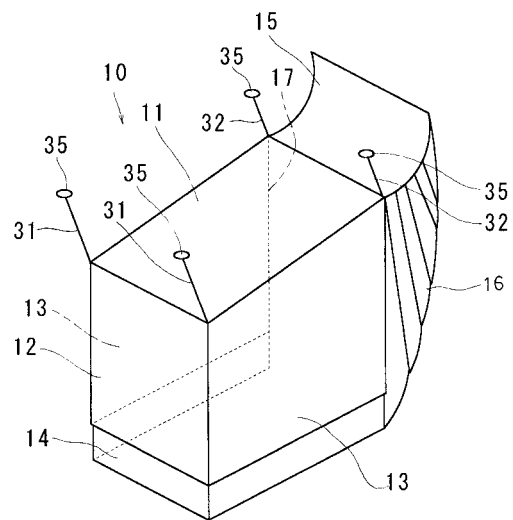
【図 2】



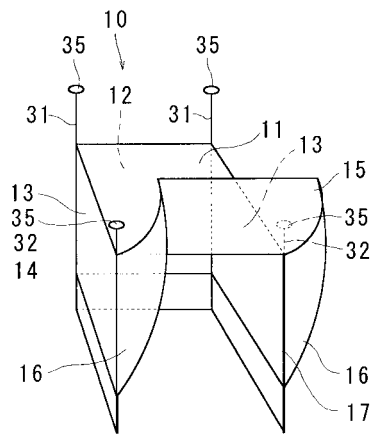
【図 3】



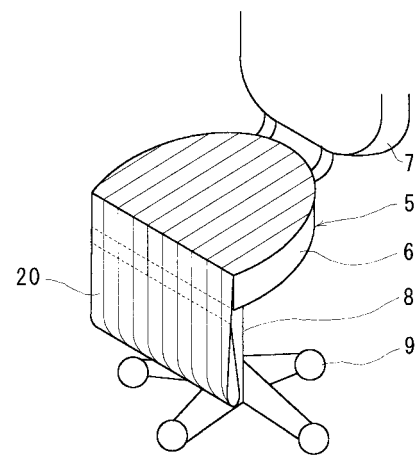
【図 4】



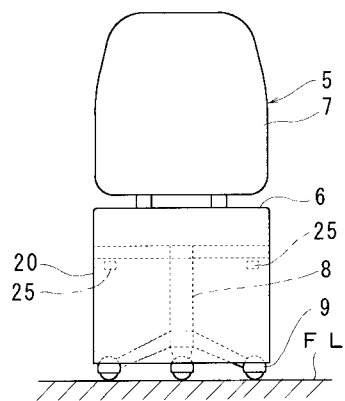
【図 5】



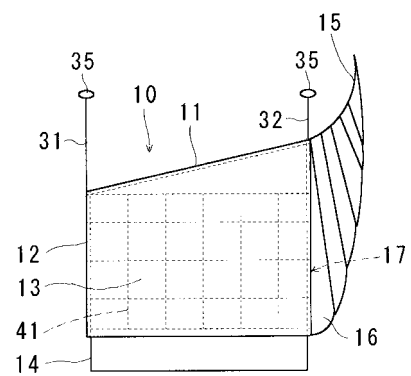
【図 6】



【図 7】



【図 8】



【図 9】

